
仙台市縄文の森広場

野外展示植栽管理計画 2022-2026

1. 計画策定の趣旨
2. これまでの取り組みと課題
 - ①植栽維持・管理
 - (1) 取り組み
 - (2) 課題
 - ②活用
 - (1) 取り組み
 - (2) 課題
3. 管理方針
 - ①ビジョン
 - ②ミッション
4. 中期植栽維持管理計画
 - ①遺跡の保護と安全管理
 - ②集落の復元と景観形成
 - ③植栽と活用計画
 - ④管理の方法と体制
5. 植生管理リスト



仙台市縄文の森広場

1. 計画策定の趣旨

仙台市縄文の森広場は平成 18（2006）年 7 月 15 日に、山田上ノ台遺跡の保存と活用を目的として開館しました。体験学習型施設としては全国的にも先駆的な施設であり、多くの市民に利用・活用されてきました。

運営にあたっては『(仮称) 縄文の森広場基本計画（中間報告案）』や『(仮称) 縄文の森広場整備基本計画』をもとに行ってきましたが、開館から 15 年以上が経過し、社会情勢の変化にあわせて施設の持つ役割も柔軟な変化が求められています。そのような中、今後の運営方針の計画を策定する必要性が生じてきました。

特に野外展示は、開館時に植栽した植物が順調に成長してきており、それらの積極的な活用と植栽サイクルをバランスよく進めることが必要で、中長期的な計画が必要となってきました。

ここに野外展示の植栽管理計画を策定し、公益財団法人仙台市市民文化事業団が受ける指定管理期間である令和 4（2022）年度から令和 8（2026）年度の 5 ヶ年の管理方針として維持管理を行っていきます。

2. これまでの取り組みと課題

①植栽維持・管理

（1）取り組み

平成 18（2006）年の開館当初は、植物の生育維持に中心が置かれ、簡易な剪定程度の管理を行っていました。生育不良によって枯死が続いたこともあり、記念植樹や補植などがありましたが、植栽の樹種の選択が計画性なく行われたことで、偏った植生環境が生まれる原因ともなりました。

このような状況を改善するため、平成 23（2011 年）に「縄文植生再現計画」を作成しましたが、専門的な視点に欠けていたことと、中長期的な計画性が不足していたこともあり、十分な実行には至りませんでした。

そこで平成 24（2012）年からは、専門家の意見を聞く場として、地底の森ミュージアムで開催していた植生検討会を縄文の森広場も加えた形で開催することとしました。植生検討会は年 2 回開催し、縄文集落の景観復元の視点からの指導や植栽植物を同定し、縄文時代の適切な植生になるよう努めてきました。それ以後は、その指導内容を反映させ、縄文時代に不適切な植物については伐採・除去し、新たに必要な植物を補植するなど、所管課の文化財課職員と情報を共有しながら維持・管理を行ってきました。

植生検討会の指導委員

指導委員名	所属	指導期間
鈴木三男	東北大学名誉教授	平成 24（2012）年度～
米倉浩司	一般財団法人沖縄美ら島財団	平成 24（2012）年度～平成 30（2018）年度
牧 雅之	東北大学教授	平成 27（2015）年度～
伊東拓朗	東北大学助教	令和 2（2020）年度～

(2) 課題

開館当初から明確な管理計画がなかったため、中長期的な視点での植栽管理が不足していました。これまで植栽リストを作成して管理は行ってきましたが、生育不良の原因や各植物がどのような意図で植栽されているか明確ではありませんでした。現在は、開館当初からの植栽と植生検討会での指導を反映した植栽が混在している状況に加え、草地への外来種の定着も大きな課題です。また、開館以降に継続して実施されている発掘調査において、植生復元のためのデータの採取・分析も行っていないこともあり、山田上ノ台遺跡の集落の最終的な復元イメージを描けず、関係者および市民と完成図を共有できない状況にもあります。

開館時から植栽されていた品種

品種	開館時	R3現在
イタヤカエデ	6	5
イヌシデ	7	5
オニグルミ	4	4
ガマズミ	24	22
クヌギ	9	15
クリ	18	15
ケヤキ	17	18
コナラ	18	18
コブシ	10	10
タラノキ	4	4
トチノキ	6	9
ニワトコ	7	5
ネムノキ	2	3
ハギ	16	14
ミズキ	5	5
ムラサキシキブ	23	21
ヤマグワ	6	4
ヤマザクラ(サトザクラ)	10	11
ヤマボウシ	20	20
ヤマモミジ(イロハ)	16	13
合計	228	221

補植などされた品種

品種	R3現在
ウルシ	8
エゴノキ	1
エノキ	1
カラハナソウ	1
キイチゴ	2
クサギ	0
コムラサキ	2
サルズベリ	3
サンヨウ	1
タニウツギ	4
タラヨウ	1
ツノハシバミ	6
ハウチワカエデ	1
ハシバミ	2
マユミ	3
ミズナラ	1
ミヤマウグイスカグラ	2
ムクロジ	3
ヤマザクラ(黒浜)	10
合計	52

②広場の活用

(1) 取り組み

野外展示を活用した事業の取り組みとしては、季節ごとに実施している「縄文まつり」での各イベント、週末体験講座で「樹皮バックづくり」や「草木染め」などを行ってきました。

学校や地域との連携事業としては、上野山小学校の各学年で「どんぐり採集」や「昆虫採取」などのほかに、「縄文畑」で雑穀の栽培・観察などを行ってきました。また、太白小学校と太白山自然観察の森と協働で行っている「森でみつける「じょうもん」」は、クリなどを児童が採集して将来的に野外展示に植栽する計画で、地域理解・環境学習の側面も含まれます。

(2) 課題

様々な取り組みを行ってきましたが、中長期的な管理計画がないために、畑を含め植栽と活用のサイクルが不明確で、バランスを意識した計画を立てづらいという問題があります。また、個別の活用案はあるものの、職員の技術・知識量に左右され、属人化することが多いという課題もあります。

3. 管理方針

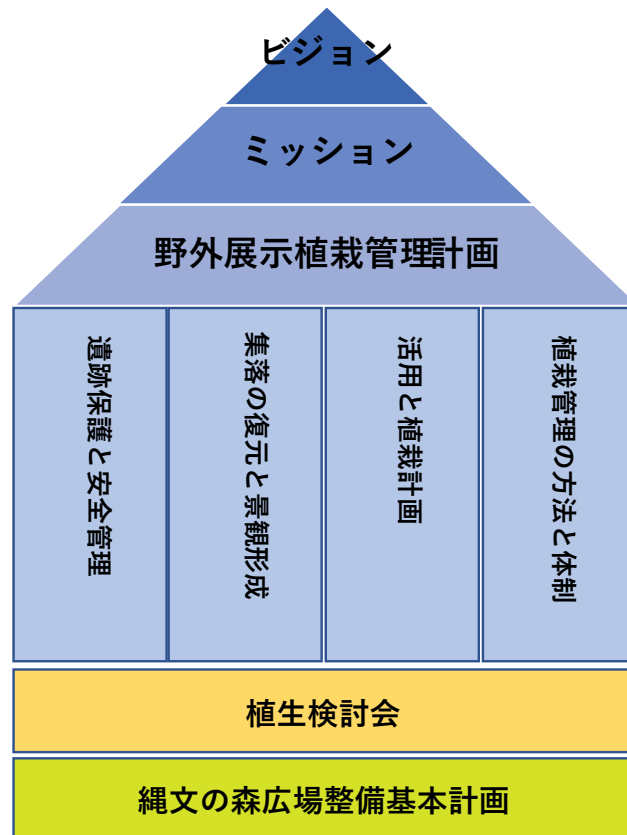
これからの縄文の森広場の野外展示を管理するにあたって、以下のビジョン・ミッションなどを職員や利用者と共有し、運営していきます。

ビジョン “森を育て、文化を育む”

地域社会・市民と共に森を育てていくことで、人と自然との関わりを考えるための場所として広場が機能し、縄文の森広場を中心としたオリジナルな文化が生まれ、育つことを目指します。

ミッション “縄文を想い、活かす森づくり”

縄文時代の植生環境や森林資源利用についての様々な調査研究成果を踏まえ、適切な「縄文の森」の植生を復元するとともに、その資源の魅力を最大限還元できるよう積極的に活用を推進していきます。

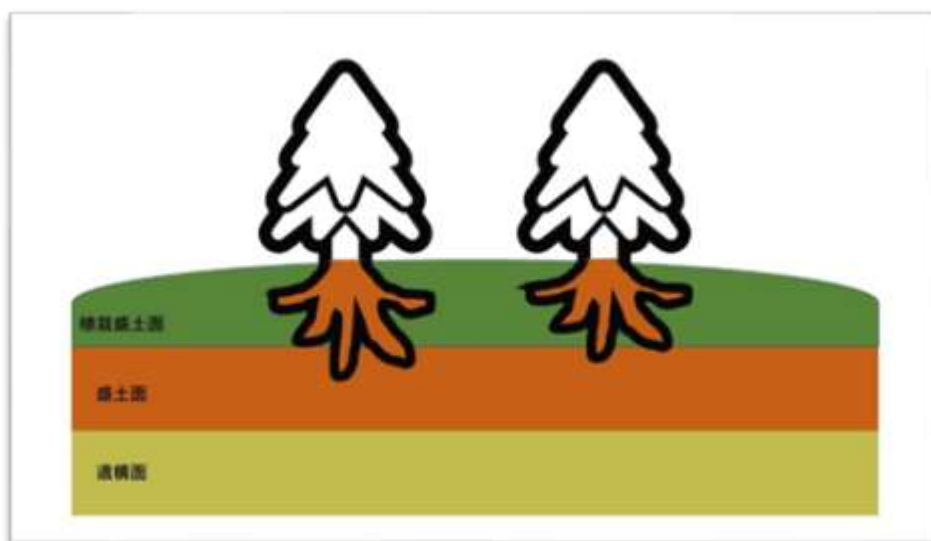


4. 中期植栽維持管理計画

①遺跡の保護と安全管理

(1) 遺構面の保護

植栽にあたっては、木本類は植栽盛土をした範囲に植栽し、遺構面に根の影響がないように配慮します。盛土以外の場所への補植が必要になった場合は、樹種の選定や盛土の必要性などを検討し、遺構面を保護します。



木本類の植栽模式図

(2) 遺構面保護状況の確認

開館 15 年以上が経過し、植栽植物が大きく成長してきました。不可視部分が及ぼす遺跡や遺構面への影響が不明確なため、今後の維持管理の方向性を検討するために調査します。遺構面に影響があった場合は、盛土方法や植物の種類・管理方法を検討し直します。

(3) 安全管理の徹底

周辺住宅への影響や倒木などを防ぐために、目視による日常点検を行います。暴風や病虫害などで起きる倒木・落枝の被害を極力防ぐために、高木の剪定や伐採など、植栽のサイクルを視野に入れて維持管理を行います。

またアレルギーなどのある方をはじめ、誰もが安心して利用できるように、植栽リストをオープンにして利用を促します。

目標－成果指標－

- (1) 不適切な植栽などがある場合は、迅速に対応します。
- (2) 計画期間に一度以上、遺構面への影響の調査を行い、報告・情報発信を行います。
- (3) 植栽による敷地外への被害を最小限に抑えます。植栽に変化があった場合は、情報を更新・発信します。

②集落の復元と景観形成

(1) 景観の維持

現代的構造物が視界に入らないように植栽範囲や種類を工夫して遮蔽し、縄文時代の景観を維持します。また、日常的な観察やメンテナンスを通して、外来植物などの増殖を抑え、景観の維持に努めます。



南側の現景観（アズマネザサの植栽で遮蔽）



西側の現景観（近隣住宅が見える）

(2) 植栽の目的ごとのゾーニング

復元ゾーンや活用ゾーンなど目的ごとにゾーニングして、植栽を行います。

・復元ゾーン

広場東側を中心として、復元住居と各種遺構と、それを取り巻く植生環境の復元を行います。そのために、山田上ノ台遺跡だけではなく、東北地方の同時代遺跡の調査・分析成果などの最新の研究成果を反映できるよう努めます。

・活用ゾーン（従来の広場ゾーン）

広場西側を中心として、縄文時代に利用された植物を植栽・管理し、計画的に活用を行っていきます。その際には、将来的に遺構・環境復元することも考慮しながら行います。



整備基本計画(2003)でのゾーニング

<編組/見本>

アケビ
ヤマブドウ
マタタビ
サルナシ
カラムシ
リョウメンシダ

<食料生産と活用>

縄文畑/マメ類・雑穀・エゴマ
棚/アケビ・ヤマブドウ・マタタビ
B・C区/ニワトコ・ヤマグワ・
ガマズミ・サルナシ

<ウルシ>

樹液採取
萌芽再生
実生苗

<見本林>

P・Q区/来館者に縄文時代の
有用植物をわかりやすく展示。
雨天時でもある程度観察できる
(学校・団体利用等)。
樹名板を多めに設置。

<民地との境界>

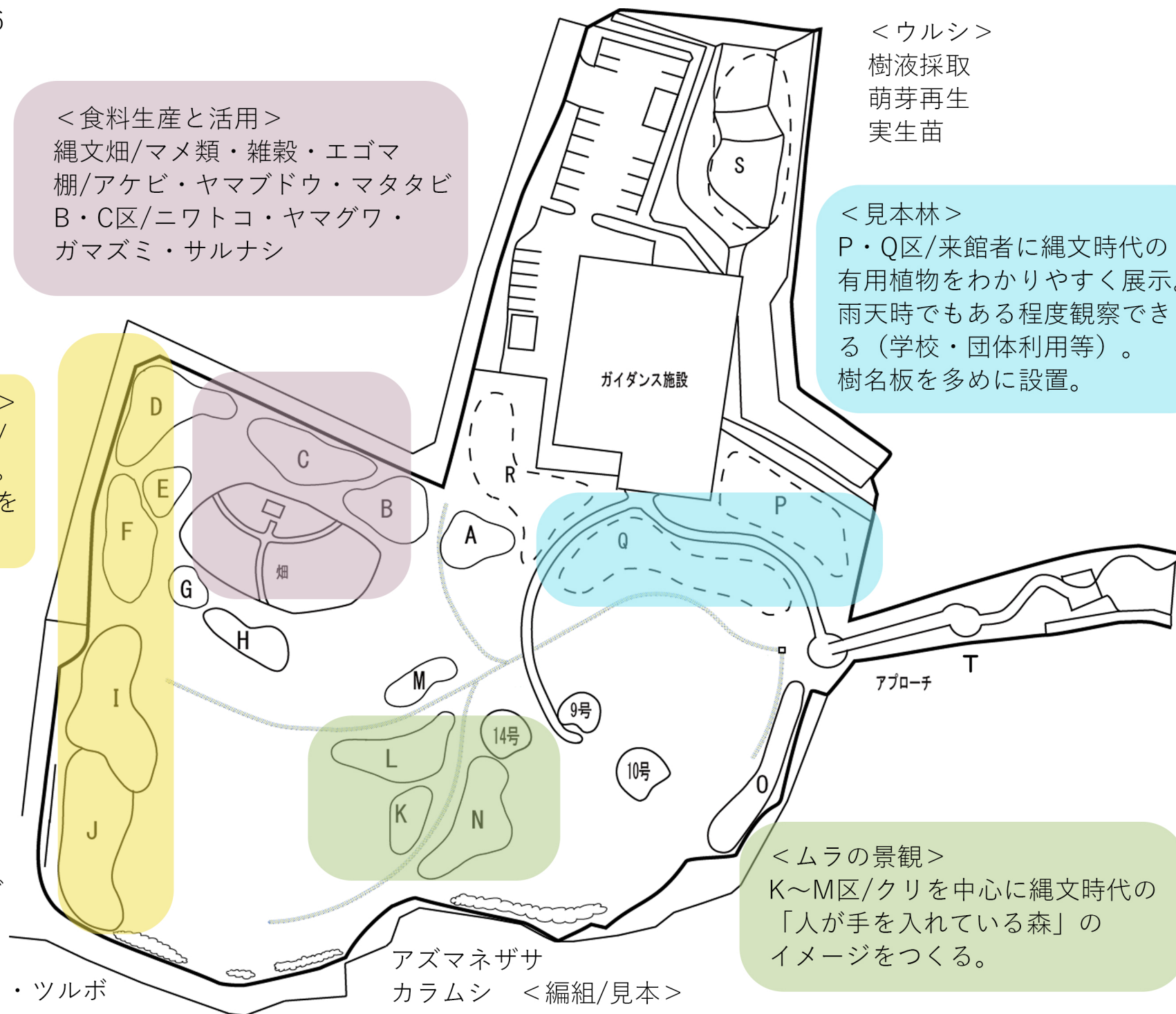
D~F区、I・J区/
植栽密度は高め。
ヤマザクラなどを
配置。

<食料/シダ>

J区/クサソテツ
ゼンマイ・ワラビ

<食料/根茎>

ノビル・ヤマユリ・ツルボ



アズマネザサ

カラムシ

<編組/見本>

<ムラの景観>

K~M区/クリを中心に縄文時代の
「人が手を入れている森」の
イメージをつくる。

（３）発掘調査成果の活用

山田上ノ台遺跡の発掘調査の成果をもとに、復元する時期や年代を明確にします。また、遺跡周辺の環境を復元するためのデータ採取や分析を行い、植生・遺構復元に反映させます。

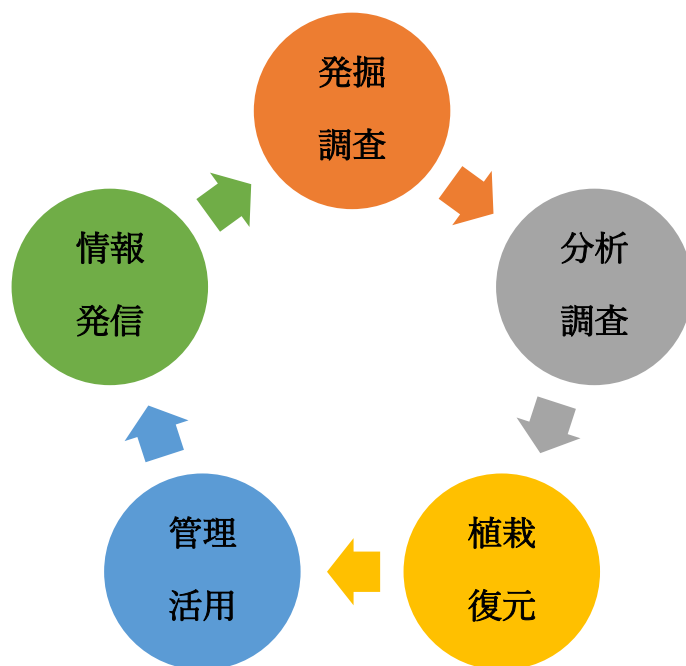
※2022 年度～2024 年度まで、発掘調査を行わない予定。



配石遺構（2012 年）



発掘調査の様子（2017 年）



野外展示管理の概念図

目標－成果指標－

- （１）敷地外の現代的構造物が、現在よりも視覚的に入らないようにします。
- （２）ゾーニングの目的と活用方法を明確にするためにマップを作成し、維持管理を行います。
- （３）発掘調査や整理を文化財課と協働で行い、集落・環境復元のための調査・分析を行います。

③野外広場の活用と植栽計画

(1) 体験メニューの開発

体験活動に使用する植物と計画を明確にして、当館職員のこれまで得た経験やスキルを活かし、植栽を使った体験メニューの開発を積極的に行います。



樹皮バッグづくり（クルミ・ケヤキ）



草木染め（サクラ）

(2) 植栽計画の可視化

活用と植栽のバランスを考慮し、中長期的な植栽計画を立てます。また、植生検討会での指導を反映させながら、年次計画も作成して管理を行い、進捗状況の透明化を図ります。

長期的には開館 20～30 年に施設の展示リニューアルが想定されるため、それに向けて所管課等と連携しながら調査・研究を行います。

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	
既存の樹木	活用						再生						
新規の樹木①	補植							活用		再生			
新規の樹木②					補植							活用	

植栽と活用のサイクルイメージ

(3) 地域社会との協働

地域社会や学校と連携することで、野外広場の利用を促進します。



上野山小学校 5 年生の畑利用



森でみつける「じょうもん」

(太白小学校 1 年生、太白山自然観察の森)

目標－成果指標－

- (1) 年間 1 つ以上の新たな野外展示活用の体験学習を開発します。
- (2) 植栽リストの整備と活用する樹種や本数などの利用計画を立てて、それに沿って運営します。
- (3) 幅広い活用方法を地域の学校や団体などに積極的に提案し、新たな利用層を誘致します。

④植栽管理の方法と体制

（１）管理体制の確保

植生担当職員を置き、地底の森ミュージアム担当職員と連携を深め、継続した植栽管理が可能な体制を維持します。

（２）管理体制の強化

専門的な知識や技術を身に付けるための研修や学会等へ参加するなどして人材の育成を行います。

（３）専門家からの指導

状況や課題に応じて指導委員を選定して植生検討会を開催し、植物考古学や植物学、環境学など専門家の指導を受けて、適正な植栽管理を行います。

（４）情報の発信とネットワークの構築

遺跡保存と活用方法の共有を目的として、内外へ積極的な情報発信を行います。また、類似施設との情報交換を行い、遺跡公園管理のネットワークを構築します。



管理体制の概念図

目標－成果指標－

- （１）職員間の定期的な打合せを行い、課題や情報の共有を図ります。
- （２）年一回以上は関連する研修や学会に参加し、知識や技術を深めます。
- （３）植生検討会を開催し、指摘事項に対し迅速かつ適切に対応します。
- （４）館や関連学会での研究報告で発表を行うほか、SNSなどで定期的な情報発信を行います。

5. 植生管理リスト

※No.は今後タグ設置と紐づけて管理を行っていく

区	No.	植栽	状態	作業
A		コナラ		
		ヤマボウシ		
		ガマズミ		
		ミズキ		
		トチノキ		
		ミズナラ		
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
B		サトザクラ		管理計画22～26/撤去
		キイチゴ（未同定）		撤去あるいは移植を検討
		ギボウシ		
		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		クヌギ		管理計画22～26 やや過密 間伐を検討
		クヌギ		
		クヌギ		
		クリ		
		ケヤキ		
		コナラ		
		タラノキ		
		マグワ	萌芽再生	撤去（継続）
		マグワ	萌芽再生	撤去（継続）
		マユミ		
		ムラサキシキブ	樹勢↓（ほぼ枯死）	
		ムラサキシキブ	樹勢↓	
		ムラサキシキブ		
		ヤマボウシ		
		ギボウシ		
		ヤマグワ（幼木）	2203苗畑から移植	
		ヤマグワ（幼木）	2203苗畑から移植	
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定 樹勢↓（ほぼ枯死）
		ニワトコ	2203「H」から移植	
		ニワトコ	2203「H」から移植	
		ニワトコ	2203「H」から移植	

区		植栽	状態	作業
C		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ケヤキ	ガマズミに実生が割込む	撤去を検討
		コナラ	2cm程度の穴10個以上	撤去を検討
		ツノハシバミ		
		ツノハシバミ		
		マユミ		
		ミズキ	樹勢↓	
		ヤマボウシ		
		ヤマボウシ		
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		サルナシ（幼木）	2203新規/フェンス	
		サルナシ（幼木）	2203新規/フェンス	
		サルナシ（幼木）	2203新規/フェンス	
区		植栽	状態	作業
D		イタヤカエデ		
		イタヤカエデ		
		ガマズミ		
		ケヤキ		
		コナラ		
		ハギ		要同定
		ミズキ		
		ムラサキシキブ		剪定
		ムラサキシキブ		剪定
		ムラサキシキブ		剪定
		ヤマボウシ		
		不明		要同定
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
区		植栽	状態	作業
E		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		クヌギ		
		ケヤキ		
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定

区		植栽	状態	作業
F		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		ガマズミ		
		クヌギ		
		ケヤキ		
		コナラ		
		ナデシコ		
		ハウチワカエデ	ミズキと混在	
		ハギ		要同定
		ハシバミ		増やさない
		ハシバミ		増やさない
		ハマナス		撤去（継続）
		マユミ		
		ミズキ		
		ムラサキシキブ		剪定
		ヤマボウシ		
		ヤマボウシ		
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
区		植栽	状態	作業
G		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		クヌギ		
		タニウツギ		
		タラノキ	タニウツギに混在	
		ナデシコ		
		未同定	草本にクヌギ実生あり	要同定
区		植栽	状態	作業
H		エゴノキ		
		クヌギ		
		クヌギ		
		クヌギ		
		ケヤキ		
		コナラ		
		コナラ		
		タニウツギ		
		タニウツギ		
		タニウツギ		
		タニウツギ		
		ツノハシバミ		
		ヤマボウシ		

区		植栽	状態	作業
I		イタヤカエデ		
		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		ガマズミ		
		クヌギ		
		クヌギ		
		ケヤキ		
		コナラ		
		ハギ		要同定
		ハシバミ		増やさない
		ハシバミ		増やさない
		ムラサキシキブ		剪定
		ヤマボウシ		
		ヤマボウシ		
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
区		植栽	状態	作業
J		イタヤカエデ		
		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		エノキ		
		オニグルミ		
		ガマズミ		
		ガマズミ	コムラサキに実生が混入	
		クサソテツ		
		ケヤキ		
		ケヤキ		
		コナラ		
		コナラ		
		コムラサキ	萌芽再生	撤去（継続）
		ツリガネニンジン		
		トチノキ		
		ネムノキ	実生	
		ノビル		
		ハギ		要同定
		ハギ		要同定
		ムラサキシキブ		
		ムラサキシキブ		
		ヤマザクラ（幼木）	2003苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2003苗畑から移植	
		ヤマボウシ		
		ヤマボウシ		
		クリ（幼木）	2203苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
		リョウメンシダ	2104採取/2107移植	
		ワラビ		

区		植栽	状態	作業
K		オニグルミ		
		ケヤキ		
		コブシ		
		ナデシコ		
		マグワ	萌芽再生	撤去（継続）
		ヤマボウシ		
		ヤマグワ（幼木）	2203苗畑から移植	
区		植栽	状態	作業
L		オニグルミ		
		ギボウシ（未同定）	斑入り	撤去
		タニウツギ	クヌギ・トチノキ混在	管理計画22～26 間伐必要？
		クヌギ	混在	
		クヌギ	混在	
		クヌギ	混在	
		クリ		
		クリ	生育に難あり	
		ケヤキ		
		コナラ		
		ヤマザクラ	2003苗畑から移植	
		トチノキ	混在	管理計画22～26/間伐？
		トチノキ		
		ヤマボウシ		
		クリ	2023苗畑から移植	
区		植栽	状態	作業
M		オニグルミ		
		ケヤキ		
		クヌギ		
区		植栽	状態	作業
N		オニグルミ		撤去を検討
		クリ		
		クリ		
		クリ		
		クリ		
		クリ		
		ケヤキ		
		コブシ		
		トチノキ		
		トチノキ		
		ハギ		要同定
		マグワ	萌芽再生	撤去（継続）
		ヤマボウシ		
		クリ	2203苗畑から移植	
		クリ	2203苗畑から移植	
		ヤマグワ	2203苗畑から移植	

区		植栽	状態	作業
O		イヌシデ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ケヤキ		
		コナラ		
		トチノキ		
		トチノキ		
		トチノキ		
		トチノキ		
		ニワトコ		
		ネムノキ		
		ネムノキ		
		ハギ		要同定
		ハギ		要同定
		ムラサキシキブ		
		ムラサキシキブ		
区		植栽	状態	作業
P		イヌシデ		
		カラハナソウ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ケヤキ		
		ケヤキ		
		コナラ	穿孔跡あり（虫害）	撤去を検討
		コブシ		
		コブシ		
		ネムノキ		
		マグワ	萌芽再生	撤去（継続）
		ミヤマウグイスカグラ		
		ムラサキシキブ		
		ムラサキシキブ		
		ムラサキシキブ		
		ヤマグワ		
		ヤマザクラ（幼木）	2003苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2003苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2003苗畑から移植	
		クリ（幼木）	2203苗畑から移植	
		クリ（幼木）	2203苗畑から移植	
		ヤマグワ（幼木）	2203苗畑から移植	
		ヤマグワ（幼木）	2203苗畑から移植	

区		植栽	状態	作業
Q		キイチゴ類（未同定）		
		クリ		
		クリ		
		クリ		
		クリ		
		クリ		
		ケヤキ	2階からの見通しを遮る	撤去/利活用
		ケヤキ		
		コナラ		
		コナラ		
		コナラ		
		コブシ		
		コブシ		
		コブシ		
		サトザクラ		管理計画22～26/撤去
		タラノキ	群生	
		タラノキ		
		ミヤマウグイスカグラ		
		ヤマザクラ（幼木）	2003苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2003苗畑から移植	
		クリ（幼木）	2203苗畑から移植	
		クリ（幼木）	2203苗畑から移植	
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		カエデ（幼木・未同定）	2203苗畑から移植	要同定
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	
区		植栽	状態	作業
R		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		ガマズミ	樹勢↓（虫害）	
		ガマズミ		
		クリ		
		クリ		
		クリ		
		コブシ		
		サトザクラ		管理計画22～26/撤去
		サトザクラ		管理計画22～26/撤去
		サトザクラ		管理計画22～26/撤去
		ムラサキシキブ		
		ヤマグワ		
		ヤマザクラ		
		ヤマザクラ		
		ヤマザクラ		
		ヤマザクラ		
		ヤマボウシ		
		ヤマボウシ	穿孔（虫が入っている）	撤去を検討
		クリ（幼木）	2203苗畑から移植	
		ヤマザクラ（幼木）	2203苗畑から移植	

区		植栽	状態	作業
S		イタヤカエデ		
		ウルシ	1604追加	管理計画22～26/活用
		ウルシ	1604追加	管理計画22～26/活用
		ウルシ	1604追加	管理計画22～26/活用
		ウルシ	1604追加	管理計画22～26/活用
		ウルシ	1604追加	管理計画22～26/活用
		ウルシ	1604追加	温存
		ウルシ	1604追加	温存
		ウルシ	1604追加	温存
		ウルシ	1604追加	温存
		サトザクラ		いずれ撤去
		サトザクラ		いずれ撤去
		サトザクラ		いずれ撤去
		タラヨウ		
		ツバキ		
		ハギ		要同定
		ムクロジ		剪定
		ムクロジ		剪定
		ムクロジ		剪定
		ロウバイ		
		ウルシ（幼木）	2203追加	
		ウルシ（幼木）	2203追加	
		ウルシ（幼木）	2203追加	
		ウルシ（幼木）	2203追加	
		ウルシ（幼木）	2203追加	
区		植栽	状態	作業
T （ア プ ロ ー チ）		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		イロハモミジ		管理計画22～26/撤去
		イヌシデ		
		イヌシデ		
		イヌシデ		
		オニグルミ	リスト外	
		オニグルミ	リスト外	
		オニグルミ	リスト外	
		オニグルミ	リスト外	
		コナラ		
		コナラ		
		コナラ		
		サトザクラ		管理計画22～26/撤去
		サトザクラ		管理計画22～26/撤去
		サンショウ（実生）	リスト外	
		ハギ		要同定
		ムラサキシキブ		
		ムラサキシキブ		
		ムラサキシキブ		
		ヤマボウシ		
		ヤマボウシ		
		ヤマボウシ		

区		植栽	状態	作業
P・S間		アカメガシワ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ガマズミ	つる性木本が絡む	
		タラノキ	群生	
		ナンバンカラムシ	群生	活用
区		植栽	状態	作業
畑		アワ		管理計画22～26/活用
		エゴマ		管理計画22～26/活用
		キビ		管理計画22～26/活用
		ソルマメ		管理計画22～26/活用
		ヒエ		管理計画22～26/活用
		ヤブツルアズキ		管理計画22～26/活用
区		植栽	状態	作業
棚		アケビ	ミツバアケビ混在	ゴヨウアケビは撤去済
		マタタビ		
		ヤマブドウ		
区		植栽	状態	作業
苗畑		カエデ（幼木・未同定）	12個体	管理計画22～26/広場移植
		カマツカ（幼木）	3個体 2203新規	管理計画22～26/広場移植
		ヤマザクラ（幼木）	8個体	管理計画22～26/広場移植
		オニユリ	23個体 2203新規	管理計画22～26/広場移植
		カラムシ		
区		植栽	状態	作業
他1		アズマネザサ		管理計画22～26/活用
		イトザサ		
		ミヤコザサ		管理計画22～26/新規植栽
区		植栽	状態	作業
他2		オギ		
		ススキ	2203苗畑から移植	
		チガヤ		
区		植栽	状態	作業
第2駐車場		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ガマズミ		
		ムラサキシキブ		管理計画22～26/活用
		ムラサキシキブ		管理計画22～26/活用